

International Association of Dynamic Psychotherapy

国際力動的心理療法学会

第21回年次大会

大会テーマ

無力感の克服 —Overcoming Helplessness—



日時

2015年11月6日（金）—8日（日）

会場

熊本大学 大学院生命科学研究部 保健学科棟 A,B,C,E 棟

〒862-0976 熊本県熊本市中央区九品寺4丁目24番1号

大会会長

宇佐美しおり

（熊本大学大学院生命科学研究部精神看護学）

第21回年次大会 大会会長挨拶



日本において、患者の在院日数が減り地域ケアや在宅ケアが推進されるようになり、精神疾患をもつ多くの人々や身体疾患をもって適応障害やうつに陥る人々は、自分自身で身体やこころとつきあう必要がでてきている。また2003年に日本では自殺者数がピークとなり、国は自殺予防、抑うつの重度化防止に取り組むようになってきた。この流れの中で、精神疾患をもつ人々への認知行動療法や行動修正治療モデルが重要視されるようになり、一時的な認知や行動の改善もみられるようになってきた。しかしながら抑うつや不安はそう簡単には改善せず、職場復帰や社会生活の維持が困難な人々も増え、多くの企業や学校がうつを有する人々へのアプローチの方法を求めようになってきている。

一方、国際社会においても、無秩序で不合理な事件・戦争が相次ぎ、大きなトラウマや人生における負担を抱えながら過酷な日々を過ごさざるを得ない人々が増えてきている。そしてその状況は「うつや不安」と表現される間もなく、人々を押し潰していく。

今回、このような国内外の状況において、人々が直面している“無力感”“うつ”に焦点をあて、精神力動的なアプローチと治療が、どう有効となりうるのか、を参加者とともに吟味できればと考えている。

特にうつ状態やうつ病、適応障害、うつ病とともに人格・発達上の課題を有している患者様への治療やケアの領域、もしくはリエゾン精神医学やリエゾン精神看護、緩和ケア、がん看護の領域で、無力感と向き合い、治療やケアを提供している医師、

臨床心理士、看護師、専門看護師(CNS)、精神保健福祉士、学生の方々に参加して頂き、無力感を有する患者、家族の治療やケアにおける力動的(精神)療法、力動的(精神)療法によるアプローチの知識とスキルを向上させるための場として本大会を活用して頂きたいと考えている。

今回、熊本の地で開催することで、力動的アプローチと治療が、無力感克服の鍵となり、また日々の現場、各職種の間理解とアプローチの共通理論として用いられることを期待している。

第21回年次大会大会会長

宇佐美 しおり

(熊本大学大学院生命科学研究部 精神看護学 教授)

大会会長プロフィール

1964年 熊本県生まれ、熊本大学教育学部看護教員養成課程卒業(教育学士)、聖路加看護大学(現 聖路加国際大学)大学院博士前期、後期課程修了(博士、看護学)、碧水会長谷川病院精神看護専門看護師、兵庫県立看護大学講師(現 兵庫県立大学看護学部)、熊本大学医療技術短期大学助教授、熊本大学医学部保健学科教授を経て現職(熊本大学大学院生命科学研究部精神看護学教授)、精神看護専門看護師第14号。

<社会的活動>日本専門看護師協議会会長、日本精神保健看護学会理事(学術連携委員)、聖路加看護学会理事、日本看護系大学協議会高度実践看護推進委員

<著書>精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、精神科看護の理論と実践-卓越した看護実践をめざして-、リエゾン精神看護、長期入院患者および予備群への退院支援と精神看護、児童青年期精神看護学-セルフケアへの支援-、オレムのセルフケアモデル-事例を用いた看護過程の展開-、ナースによる心のケアハンドブック、セルフケア看護アプローチ、精神科病院で働く看護師のための災害時ケアハンドブック

第21回年次大会 大会組織

大会会長 --- 宇佐美 しおり

(熊本大学大学院 生命科学研究部 精神看護学 教授)

学術委員会

委員長 ----- 宇佐美 しおり (大会会長)
副委員長 ----- 中村 有希 (PAS 心理教育研究所)
委員 ----- 池上 研 (池上クリニック)
平田 真一 (桜が丘病院)
橋本 和典 (国際基督教大学)

大会企画委員会

宇治 雅代 (熊本大学大学院生命科学研究部生命倫理学)
江崎百美子 (くまもと心理カウンセリングセンター、熊本県臨床心理士会会長)
和田 冬樹 (菊陽病院)
藤井 美香 (桜が丘病院)
原田 健一 (桜が丘病院精神保健福祉士)

瀧下 裕子 (熊本大学医学部附属病院)
佐藤 寧子 (東京医療センター)
金子 亜矢子 (東京共済病院)
松枝 美智子 (福岡県立大学看護学部)
石飛 マリコ (熊本大学大学院生命科学研究部実践看護学)
宮崎 志保 (熊本大学大学院生命科学研究部精神看護学)

大会事務局

事務局長 -- 宮崎 志保 (熊本大学)
広報 ----- 石飛 マリコ (熊本大学)
受付 ----- 藤井 美香 (桜が丘病院)
会場 ----- 平田 真一 (桜が丘病院)
会計 ----- 宮崎 志保 (熊本大学)
久保田 加代子 (高知医療センター元看護局長)
通訳・翻訳- 宇治 雅代 (熊本大学大学院)
橋本 麻耶 (PAS 心理教育研究所)

国際力動的(心理)療法学会 理事長挨拶

心理療法家は何処へ行った?

野に咲く花は何処へ行った? 時間だけが過ぎ去った。
野に咲く花は何処へ行った? もう昔のことになった。
娘達が全部摘んで持って行った。
いつになったら分かるのだろうか?

—ピートシーガーから引用—

メガ災害対応チームを組織し、東日本大震災による PTSD および PTSR の予防と治療の臨床実践に取り組み始めたのは、2011年3月11日だった。PTSD/PTSR の治療と予防は、大災害被害の始まりのときから、救急対処がなされるまっただ中で、臨床トリアージによって展開されなければならない。そのためには十分に訓練された心理療法家とそのトリアージに参加していなければならない。東日本大震災においてはその備えと整えはおぼつかず、体系的な PTSD 予防と治療的対処はなされなかった。結果、現在の様々な様態による PTSD および PTSR の現れが、医学的に説明のつかない症候を伴う子どもの発達的問題に、青年の破壊的行動あるいは引きこもりに見られ、家族機能の障害、うつの蔓延化そして非常に多くの仮面うつの問題が広がっている。これは東北被災地に露になっている正に危機的事態であるが、臨床様態そのものは被災地に限られたものではなく、日本全体に慢性的に見られるものである。

心理的に傷ついた子ども達、青年達、うつに圧倒されている大人達は、メガ災害被災救急の一次支援から二次支援においては、美しい野の花、暖かく優しい臨床支援者から安堵を得た。しかしそこから先、心の内にどっしり横たわる痛みや外傷をどう癒すことができるのかは、誰も分からなかった。結果、人々は無力感の荒野に追いやられた。野の花がすべてどこかへ行ってしまった後の荒野に、置き去りにされてしまったのである。これが東北における3.11被災による心的傷害を被った人々の過酷な現実であり、急速なグローバル社会化の渦中にある日本の至る所に見られる傷ついた心の慢性化した現実でもある。

これらの人々には、PTSD 治療には避けられない陰性治療反応にも対応できるタフな訓練された心理療法家が必要である。非常に辛い精神反応や障害に苦しむ人々のために安堵感をもたらすカウンセラーや、精神科医、看護師、ソーシャルワーカーは多くいる。しかしながら辛さを超えて苦しんでいる人々の心を逞しくし、それぞれの人格の再構築を扶けることのできる心理療法家はほとんどいない。

被災地になくなった美しい野に咲く花を再び愛でたいと思うなら、荒れた地を耕し、種を蒔き、新たに逞しく育てることをしなければならない。有能な心理療法家の働きに期待したいなら、これも同じである。

心理療法家は何処へ行った? 時間だけが過ぎ去った。
心理療法家は何処へ行った? もう昔のことになった。
苦闘よりもただ安堵がいいのか?
いつになったら分かるのだろうか?

IADP のミッションは、メンタルヘルスの荒野に精神科医、心理士、看護師、ソーシャルワーカーの畑を耕し、新たにタフな心理療法家を育てる所にある。彼らを実践の地に呼び戻すだけでは全く足りない。美しい秋の熊本に集う参加者諸氏は、このようなわれわれの不可能なミッションを共にする新たな展望を得るであろう。熊本で会いましょう。

国際力動的(心理)療法学会理事長

小谷 英文, Ph.D., CGP



理事長プロフィール

1948年広島県広島市生まれ 博士(心理学)
専門:精神分析的心理療法 困難患者心理力動/技法
略歴:広島大学助手、アデルファイ大学高等臨床心理学研究所客員研究員、New York Univ. Post-Graduate Medical School 集団精神療法過程修了 広島大学助教授、国際基督教大学教授 同高等臨床心理学研究所創立所長を経て、現 PAS 心理教育研究所 創立理事長
学会役職:国際集団精神療法集団過程学会元理事 集団分析的心理療法国際協会創立教授
復興臨床オーガナイザー:ライオンズクラブ心の復興プロジェクト:震災復興心理・教育臨床センター(仙台) 福島心の復興心理教育臨床センター(郡山)
主 著:『Creating Safe Space through Individual and Group Psychotherapy』『現代心理療法入門』『ダイナミックコーチング』『ガイドダンスとカウンセリング』『集団精神療法の進歩』

第 21 回年次大会 大会プログラム一覧

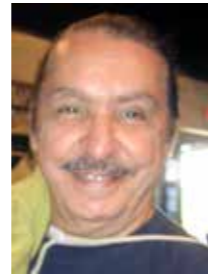
2015年11月6日(金)：大会1日目	2015年11月7日(土)：大会2日目	2015年11月8日(日)：大会3日目
	9:00-15:00：訓練プログラム 心理療法の知識・態度・技術を磨く訓練ワークショップ (ワークショップ概要は8ページをご確認ください)	10:30-12:00：事例検討 スーパーヴァイザー： ・橋本 和典(国際基督教大学) ・ラルフ・モーラ(レイノルド・アーミー・コミュニティ病院) ・セス・アロンソン(ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所) ・河野 伸子(国家公務員共済組合連合会横須賀共済病院)・江崎 百美子(熊本県臨床心理士会)・宇佐美 しおり(熊本大学大学院生命科学研究部) ※アロンソン先生、モーラ先生の事例検討には通訳が付きます。
	12:00-13:00：ランチタイム ワークショップ・タイトル ・抑うつと無力感：戦術と技術 ・心理力動的な外来集団精神療法：PTSDとうつ力動からの解放 ・『僕の古い友達、暗闇君、こんにちは』—青年のうつに取り組み— ・対人援助職のための応答構成入門 ・プレ・セラピイ技法：SMGとSET ・力動的な精神看護介入技法、—セルフケアの促進のための力動的な看護面接— ・組織開発の力動と介入法	12:00-14:00：ランチタイム・理事会／総会
13:00-13:15：開会式 13:20-14:20：大会会長講演 「無力感克服の鍵—力動的な精神看護の立場から—」 講師：宇佐美 しおり(熊本大学大学院生命科学研究部)		14:00-16:00：全体ケースセミナー 「無力感の克服 Overcoming Helplessness」 コンダクター：小谷 英文(IADP 理事長/PAS 心理教育研究所) 事例提供者：宇治 雅代(熊本大学生命科学研究部生命倫理学)
14:20-15:35：大会基調講演 「グローバル時代に失われたもの：自分自身および他者の『無力感』に関わる個人と集団の力動」 講師：小谷 英文(IADP 理事長/PAS 心理教育研究所)	15:15-16:45：研究発表 ・精神看護 座長：青本 さとみ(九州大学)・藤井 美香(桜が丘病院) ・病院臨床 座長：平田 真一(桜が丘病院)・嶋田 一樹(静岡県立こども病院) ・アウトリーチ力動支援 座長：和田 冬樹(菊陽病院)・宇治 雅代(熊本大学) ・学校・発達臨床座長：大橋 良枝(聖学院大学)・足立 智昭(宮城学院女子大学) ・学生相談 座長：石川 与志也(ルーテル学院大学)・設楽 友崇(山梨英和大学学生相談所) ・クリニック・開業臨床 座長：石川 淳子(ひだクリニック) 花井 俊紀(野の花メンタルクリニック) ・リサーチ 座長：植松 晃子(ルーテル学院大学)・平野 幹雄(東北文化学園大学)	16:00-16:15：振り返りと閉会式
15:50-17:50： スタートアップセミナー —力動的アプローチへの第一歩— (セミナー概要は6ページをご確認ください。) セミナー・タイトル ・ひきこもりの病理—力動的視点から— ・精神科リエゾンチームの効果的な展開 ・精神力動的な理解とアプローチ—看護職の立場から— ・初心者のための力動的な集団精神療法トレーニング ・力動的な面接法の基礎技術：空間作り—治療的介入—アセスメント	17:00-18:30：エドワード・ピニー記念講演 「無力感と逆転移、逆転移の克服」 司会：池上 研(池上クリニック) 講師：セス・アロンソン(ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所)	
18:00-20:00：特別セミナー (Special Night Seminar) (セミナー概要は7ページをご確認ください。) セミナー・タイトル ・精神看護CNS 事例検討セミナー(日本CNS協議会精神看護分野との共催) ・PTSDのための精神療法の基本的な技術 ・青年期の心理療法—青年期創造性短期集中グループ—		
	19:00-21:00：懇親会 会場：MEDICO(熊本大学内)	

ゲスト・ファカルティ



セス・アロンソン, Psy.D., CGP, FAGPA

9.11における子どもや青年の PTSD 対処の指揮をとる。代表的な著書『Group Treatment of Adolescents in Context』(Saul Scheidlinger, Fady Hajal と編著)。ウィリアム・アロンソン・ホワイト研究所(ニューヨーク)フェロー/ファカルティ/トレーニング・スーパーバイジング・アナリスト、マンハッタン精神分析研究所ファカルティ・スーパーヴァイザー、ノースウェスト精神分析センター(シアトル・ポートランド)ファカルティ、ロンドンアイランド大学客員教授。



ラルフ・モーラ, Ph.D., MSS, CAIA

米海兵隊の PTSD 治療のエキスパート。アデルファイ大学高等心理学研究所にて学位取得後、アメリカ、ヨーロッパ、日本等において臨床活動を行ってきた。現在、レイノルド・アーミー・コミュニティ病院、クリニカルサイコロジスト

スタートアップセミナー

ひきこもりの病理—力動的視点から—

講師 池上研(池上クリニック)

「ひきこもり」を持つ人は、現在 69.6 万人存在し、ひきこもりの人々が増えていることは、社会にとっての損失が大きいと考えられます。「ひきこもり」の半数に、精神障害があるといわれ、強迫性障害、自閉症性障害などがあるといわれていますが、「ひきこもり」の背景にある病理、症状が、十分注目されているとはいえない状況です。今回、まず「ひきこもり」の背景である強迫性障害、自閉症性障害等の病理、症状、精神力動、家族力動に関する講義を行います。そしてその後、「ひきこもり」を体験してきた患者の事例をもとに、治療者と患者との治療のプロセス、精神力動について理解を深める予定です。

精神科リエゾンチームの効果的な展開

講師 野末 聖香(慶應義塾大学看護医療学部)
金子 亜矢子(東京共済病院)
佐藤 寧子(東京医療センター)

このプログラムは、精神科リエゾンチームを実施している、もしくは実施する可能性のある治療チームメンバーならびに看護師、精神看護専門看護師を対象としたセミナーです。①精神科リエゾンチームの精神力動、②チーム・ビルディングの方法、③チームのグループ・ダイナミクスと効果的な展開方法について、講義を行い、グループ・ダイナミクスの変え方、その中で

の各職種の役割、について、事例をもとにロールプレイを行い、自分の知識と技術を改善、向上させていくセミナーです。

精神力動的な理解とアプローチ—看護職の立場から—

講師 岡谷 恵子(東京医科大学)
松枝 美智子(福岡県立大学)
川田 陽子(八尾こころのホスピタル)
宇佐美 しおり(熊本大学大学院生命科学研究部)

すべての看護師が患者との信頼関係を構築しながら必要とされる看護を展開する中、このプログラムは、患者—看護師の信頼関係を、患者の精神力動を用いて構築する理論と技法を提供します。患者を精神力動理論を用いて理解し、症状、自我機能、自己、人格を査定しながら患者に安心、安全を提供するための信頼関係の作り方を検討します。講義、シミュレーション、ロールプレイを用い、自殺企図のリスクが高い患者・うつと不安が強い患者・衝動性の高い患者・攻撃的で関わりが難しい患者・医師と看護師を分裂させる患者、に対する精神力動的な理解と信頼関係の構築方法を検討していきます。

初心者のための力動的集団精神療法トレーニング

講師 能 幸夫(PAS 心理教育研究所)
中村 有希(PAS 心理教育研究所)
平田 真一(桜が丘病院)

力動的集団精神療法の本質は元気が出ること、元気になることです。人は仲間とともに何かに取り組むときに、いつも以上に元気が出るし、元気になります。ワークショップの目的はこの本質を共有することです。

初心者に最低限必要なことはグループを安全に始め、安全に終わることです。それは自動車の教習と同じです。初心者は必死で力動的集団精神療法に取り組みます。その必死に取り組むことが、患者さんやクライアントの必死で自分の病理に取り組む姿勢に共鳴し、意義ある大きな仕事を実現します。グループでの体験とその分析を通じて、集団精神療法の面白さを追求してみましょう。そして、そのために最低限の必要な準備をしていきましょう。

参考文献: 小谷英文『集団精神療法の進歩』序章、第7章

力動的面接法の基礎技術: 空間作り—治療的介入—アセスメント

講師 小谷 英文(PAS 心理教育研究所)
髭 香代子(PAS 心理教育研究所)

力動的心理学の技術は、精神分析、対人関係療法、自己心理学、カウンセリング心理学とはまったく異なる精神的心理学に基づいた「自分(me)」と「自分でないもの(not me)」に焦点を当てたものである。このアプローチのごく基本的な要素は、エネルギーと情報である。

心理力動的面接は力動的心理学の基礎技術だが、心理療法のセッションにおいてのみ応用されるものではない。コンサルテーションや準備面接、危機介入、リエゾン介入、集団精神療法、組織開発のためのエグゼクティブコーチングにおいても実用的に使われるべきものである。心理力動的の世界を体験し、力動的面接法の基礎技術の活用法と出会い、磨きをかけるセミナーにご招待しよう。

特別セミナー

「精神看護 CNS 事例検討セミナー」 (日本 CNS 協議会精神看護分野との共催)

講師 栗原 順子(東京都立小児総合医療センター)
馬場 華奈己(岡山大学医学部附属病院)

このプログラムは、本大会と日本専門看護師協議会(CNS 協議会)精神看護分野との共催によるプログラムです。精神科病院、総合病院、地域において、ケア困難な患者の理解とケア方法に関する検討を事例検討を通じて行います。さらに、組織における専門看護師としての役割開発の方法、看護管理者、他職種との共同方法、実践能力の磨き方、を検討していきます。また、看護師のキャリア開発やスタッフ能力の育成、組織における役割開発について検討していきます。

PTSD のための精神療法の基本的な技術

講師 ラルフ・モーラ(レイノルド・アーミー・コミュニティ病院)

このセミナーでは、精神療法における心的外傷後ストレス障害(PTSD)のための基本技術の概要を紹介する。まず、PTSD についてのいろいろな仮説、そして PTSD が人の一生において普通に起きる現象とみなされるようになってきている近年の視点の紹介から始める。この考え方によりトラウマとの診断にもとづく治療は、多くの精神障害、行動障害、身体障害の治療に適切だとみなされており、心と身体を二分しない全体的な視点にもとづく治療へという方向づけを与えている。この方向性から、

病理学的アプローチから健康生成的アプローチへと治療を再構成することも含まれている。これらの観点から、特に心的外傷への効果的治療において鍵となる戦略的に鍵となる領域をねらった技術を概説する資料を当日用意する。

青年期の心理療法—青年期創造性短期集中グループ—

講師 中村 有希(PAS 心理教育研究所)
国際基督教大学チーム: 高田 毅・栗田 七重

青年期創造性短期集中グループ(通称: アドクリ)は、小谷他(2001)の青年期アイデンティティグループを基本として、現代的力動を踏まえて開発実践が行われている心理教育的集団精神療法処方である。身体性が弱く、知性化・合理化・自己愛空想に頼る青年が増えた。彼らは生のエネルギーに触れる機会を得られずにいる。とはいえ、現実適応は必ずしも悪いわけではない。青年が自らのエネルギーから逃げず、より創造的にエネルギーを活かせるようになることを目的に構造と介入を精練したのが本グループである。本セミナーでは、ライブでデモンストレーションを実施し、アドクリの基礎理論と構造的介入の意味、セラピスト介入の面白さを掴むことを狙いとした。

訓練プログラム ワークショップ紹介

抑うつと無力感：戦術と技術

トレーナー：
ラルフ・モーラ（レイノルド・アーミー・コミュニティ病院）

このワークショップは、抑うつと、特に無力感のテーマを扱う。まず最初に、抑うつについて概説し、それから無力感という概念につなげる。治療では、個々の患者の変化への準備段階を支持する必要があることに注意を喚起したい。変化への準備段階の輪郭を描き、これは患者が変化への準備ができることを狙った特定の治療的戦術・技術を、決定する道筋として用いられる。これらの戦術と技術は、行動学的、認知行動学的パラダイムに負うところがかなりあるが、これらのパラダイムが精神力動的なねらい・目的をいかに補うかについても説明する。プログラムの全体的な目標は、さもなくば患者の抵抗とみなされてしまうような事象への対応に役に立つ戦術と技術のいくつかを参加者に提供することにある。また、患者へのより全体的なアプローチを提供することを目指しており、それは通常用いられているよりもずっと協力的で教義的なやり方になる。最後に、統合された行動学的健康プログラムを紹介する。これは、メンタルヘルスの機関で普通は出会わない心理学的な問題を持つ身体疾患の患者への対応として有効である。

心理力動的な外来集団精神療法：PTSDとうつ力動からの解放

トレーナー：橋本 和典（国際基督教大学）
髭香代子（PAS 心理教育研究所）

IADP が向き合い続けている東日本大震災後の大規模PTSDや「うつ」からの解放には、力動的集団精神療法が欠かせない。また、我々の専門とする青年期困難患者が頻繁にあらわす自殺未遂、自傷行為等の自己破壊的行動化の奥にも、複雑性／累積PTSDやうつが存在する。本ワークショップは、ロールプレイなどの体験演習や小講義を用いて、1) 見えにくいPTSDや、うつ力動を可視化し、的確な査定（トリアージ/セラグノーシス）を行うための基礎理論を学ぶこと、2) その治癒を促進する力動的集団精神療法の実践イメージと基本技法に習熟することを目的とする。力動の世界に初めて触れる初学者の方から、ベテラン臨床家の方まで、心の重荷を解放し、腹の底から元気になる力動的集団精神療法の世界への第一歩を、熊本から始めてみましょう。

『僕の古い友達、暗闇君、こんにちは』—青年のうつに取り組む

トレーナー：
セス・アロンソン（ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所）

青年期のうつは、その絶望の中にある青年の窮状を捉え、喚起させられるかのように様作家や詩人によって描かれてきた。シェークスピアのハムレット、サリンジャーのホールデン・コールフィールド、シルビア・プラスの『ベル・ジャー』は、みなうつの青年のありさまである。精神分析学の文献、フロイト、アブラハム、そして後には、スピッツ、ボウルビィ、アンソニーは、診断と治療法についての理解に貢献している。またよく知られているようにアロン・ベックと彼に続く人々によって開発された認知療法もまた、治療戦略の発展において非常に貴重である。このワークショップでは、青年期のうつの広がり、この年齢層に「当たり前起きる」うつと精神病理としてのうつを何によって識別するのかを探る。参加者は、診断について学ぶ。また、個人療法、集団精神療法、家族療法を用いたときの、多様な治療的反応についても検討する。

対人援助職のための応答構成入門

トレーナー：能 幸夫（PAS 心理教育研究所）

力動的視点を据えた精神医学、精神看護学、心理療法、ソーシャルワークは、人と人が心理的にコンタクトを取り、相互作用が生じる場における対話や応答がそのまま治療的あるいは援助的な介入になっていきます。わたしたちは、どのように生き対話や意味ある応答を創りだしているのでしょうか。

応答構成訓練は、具体的には、時間をとめて、ある場面における患者さんやクライアントの言葉を前にして、自分の応答を構成していくプロセスを吟味し検討していく訓練です。今回の入門講座の対象は、医師、看護師、臨床心理士、ソーシャルワーカーといった対人援助の専門職の方々です。

ともに楽しくそして有意義な訓練にしていきましょう。

*：参加者には事前に基本テキストを配布する予定です。

プレ・セラピー技法：SMGとSET

トレーナー：
SMG：花井 俊紀（PAS 心理教育研究所）
橋本 麻耶（PAS 心理教育研究所）
SET：中村 有希（PAS 心理教育研究所）
荻本 快（相模女子大学）

助けの必要がありながら、相談に来られない、相談への動機がもてない人々に対して、心理療法への準備態勢を整える処方方がプレセラピーである。我々は2011年、東日本大震災以降、引きこもり、助けを拒絶する人々に多く直面する中で本処方を展開してきている。プレセラピーは、心の機能を活性化し、精神内的な安全感を確かなものにするすることで、自分を育て、鍛えることに抵抗する力や無力感を緩和する。本訓練では、Story Making Group(SMG)、Socio-Energetic Training (SET) 2つのグループ処方を紹介する。参加者は実際に2処方を体験し、現代におけるプレセラピー処方の必要性と、2つの各技法の臨床的意義、そして本処方における基礎技法を学ぶことが目的である。

力動的な精神看護介入技法—セルフケアの促進のための力動的看護面接—

トレーナー：岩切 真砂子（慈恵病院）
寺岡 征太郎（東京医科大学）
宇佐美 しおり（熊本大学大学院生命科学研究部）

精神看護において、オレム—アンダーウッドのセルフケアモデルは、人間関係の看護論を展開したヒルデガード・ペプローに続き、日本では普遍的に用いられるケアモデルとなってきました。そしてこのケアモデルは、脆弱性—ストレス—対処モデルと共に、患者の理解のために精神力動理論が用いられていますが、これについては正確に理解されていません。また、オレム—アンダーウッドモデルでの患者のセルフケア促進のための看護過程の展開においては、力動的看護面接が変化の要となっているにも関わらず、その方法論については個々人の看護師が自分の考えで展開しているにとどまっています。そこで、今回、オレム—アンダーウッドモデルを正しく理解、活用するために、①精神力動理論とオレム—アンダーウッドモデル、②セルフケア促進のための力動的看護面接の技法、③患者・家族・看護師集団の凝集性と機能を高めるための看護者の介入技法について、講義、事例検討、ロールプレイを通じて深めていきます。

組織開発の力動と介入法

トレーナー：小谷 英文（PAS 心理教育研究所）

組織開発の理論と実践は、行動科学だけでなく、精神分析および集団精神分析の理論によって大きく発展を遂げてきている。エグゼクティブコーチングもまた、その恩恵を受けてきている。私のアプローチは、力動的な心理療法、集団精神分析、そして一般システムズ理論から再構築、統合したものである。

このプログラムは、心理療法の仕事が効果的にできるように、医療専門家や対人援助従事者の組織に焦点を合わせている。特に陰性治療反応(NTR)を伴う困難患者の力動的な心理療法は、それが行われる機関を様々に揺るがす。機関の環境全体が心理療法の仕事を揺るがし、きわめて破壊的な影響をもたらすこともある。どのような組織で働く心理療法家も、安全に自分の心理療法パウンダリーを守るために、リエゾンワークを行う必要がある。心理療法を効果的に行うには、その組織の中に、十分に心理学的心性に馴染んだ環境が必要である。力動的な心理療法家としては、心理療法によって患者の治癒を助けるとともに、心理療法にとって最適の環境を組織内に開発していかねばならない。本プログラムでは、個人と組織の相互作用ダイナミクスの基礎理論と、それを生産的かつ創造的に使えるようになるための分析と介入の手法を学ぶ。

*各参加者は、ご自分が心理療法もしくは関連の仕事をしている所属機関で組織展開上にぶつかる問題を事例報告メモの形で準備してご持参下さい。

事例研究・事例検討 発表者募集

本大会では、事例研究発表、および事例検討を行う枠があります。

- 1) 事例研究発表：11月7日(土) 15:15～16:45
- 2) 事例検討：11月8日(日) 10:30～12:00

1) 「研究発表」について

下記の領域について、1領域3名、7領域21名の発表者を募集しています。研究発表を目的とします。発表者の持ち時間は30分(25分発表、5分ディスカッション)です。

- 領域：①精神看護領域 ②病院臨床領域 ③アウトリーチ力動支援領域 ④学校/発達臨床領域 ⑤学生相談領域
⑥クリニック/開業臨床領域 ⑦リサーチ

テーマ：病院臨床・アイデンティティ・精神看護・PTSD・うつ・無力感・アウトリーチ

2) 「事例検討」について

国内・海外の著名セラピストからスーパービジョンを受けたい方を募集します。時間は1時間半で1事例の呈示となります。発表は日本語もしくは英語のいずれかとなります。海外のセラピストからスーパービジョンを受けたい場合には、英語での発表を歓迎します。セス・アロンソン先生、ラルフ・モーラ先生のスーパービジョンの際は通訳がつくため、発表は日本語でも行うことができます。ただし、発表要旨は英語で作成してください。英語での発表要旨作成に関してご心配な点がございましたら、大会事務局にご相談ください。

領域：

- ①橋本和典(国際基督教大学) 困難事例
- ②ラルフ・モーラ(レイノルド・アーミー・コミュニティ病院)： 子どもの虐待、PTSDの事例
- ③セス・アロンソン(ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所)： 思春期・青年期の事例
- ④河野伸子(国家公務員共済組合連合会横須賀共済病院)
江崎百美子(熊本県臨床心理士会)
宇佐美しおり(熊本大学大学院生命科学研究部)： リエゾン精神医学・看護領域の事例

特に、以下のいずれかをキーワードとする事例を歓迎いたします。

キーワード：力動的な心理療法/集団精神療法/思春期・青年期/児童/家族/トラウマ/虐待/PTSD/人格障害/うつ/ひきこもり/精神看護/リエゾン精神看護

申込手続

研究発表、および事例検討の希望者は、発表希望の旨を申込書にご記入ください。こちらより発表要旨要項をお送りしますので、ご記入いただき、郵送またはメールにて事務局に提出していただけます。提出期限は2015年8月31日(月)です。選定委員会が発表要旨の審査を行い、発表の可否を9月4日(金)までにご連絡いたします。

アクセス

大会会場

熊本大学大学院生命科学研究部 保健学科棟A,B,C,E棟
〒862-0976 熊本県熊本市中央区九品寺4丁目24番1号

主なアクセス

<JR 熊本駅から>

バス：第一環状線(本荘経由)に乗車、「大学病院前」下車
タクシー：約5分

<交通センターから>

バス：八王子環状・御幸木部・野越団地行きに乗車、「大学病院前」下車
タクシー：約5分

<熊本空港から>

バス：リムジンバス(県庁経由)に乗車、「通町筋」で下車しタクシー約5分
タクシー：約40分



熊本市内広域図



会場付近図

大会事務局からのお知らせ

大会参加手続き

申込書にご記入の上、E-mailまたはFAXで大会事務局(下記参照)までお申込みください。申込書は、国際力動的心理療学会 (IADP) ホームページからダウンロードできます。

IADP ホームページ : <http://www.iadp.info/>

参加申込み締切り : 10月20日(火)

参加費

会員:	12,000 円
非会員:	15,000 円
学生(大学院生を含む):	10,000 円
懇親会費:	4,800 円

大会会場にアクセスしやすい場所近辺のホテルのご案内

参考までに、アクセスしやすい場所近辺のホテルを下記にご案内させていただきます。

<JR ご利用の方>

熊本駅近辺のホテル: JR九州ホテル熊本、東横INN 熊本駅前、ホテルニューオータニ熊本

<飛行機をご利用の方>

交通センター近辺のホテル: 熊本交通センターホテル、ドリーミン熊本、東横INN 熊本交通センター前

通町筋近辺のホテル: ジーアールホテル水道町、東横INN 熊本城通町筋

大会事務局

国際力動的心理療学会 第21回年次大会事務局長:

宮崎 志保(熊本大学大学院生命科学研究部精神看護学 助教)

大会事務局: 〒862-0976 熊本県熊本市中央区九品寺4丁目24番1号
熊本大学大学院生命科学研究部 精神看護学講座

TEL & FAX: 096-373-5511

学会ホームページ: <http://www.iadp.info/>

メールアドレス: miyas@kumamoto-u.ac.jp